

ここからの日本の針路

（二財）日本総合研究所会長
寺島 実郎



- *内向きになって低迷する日本
- *GDP世界シェアのピークは1994年
- *アベノミクスを生み出した背景
- *依然低迷が続く消費の内実
- *スマホに依存した情報収集
- *今の世界は1920年代に似ている
- *デジタル・金融複合体化するトランプ政権
- *産業資本主義からのパラダイム転換
- *これから日本に必要なものは何か
- *日本の強みを活かした日米共同プロジェクト

山縣 それでは開会いたします。（拍手）

今日は、（一財）日本総合研究所の寺島実郎会長にお越しいただきました。

寺島さんは、早稲田大学の大学院で政治学研究科の修士課程を出られて、三井物産に入られ、それから商社の情報戦のいちばん中心のところでありますワシントンの事務所長をなさっていました。それから三井物産の戦略研究所長、常務執行役員を経て、現在は多摩大学の学長、それから日本総合研究所の現在の会長というお仕事をなさっています。

実は、1994年に新潮社から出ました『新経済主義宣言』で第15回石橋湛山賞を受賞されています。それからさつきちよつとお話ししたんですけれども、ほぼ30年ということござ

います。

皆さんも首相の動静とか首相官邸とか、新聞の下に石破さんの最近の動きが書いてあると思いますが、寺島さんは、そこに時々ご登場になって、石破さんと一緒に食事をしたりされていまして、差していろんなお話をされていると。ですから、今日もいろんなお話の背景に、石破さんの頭の中、考え方を十分にご存じの方だと思いますので、そのままはお話しできないと思いますけれども、それを踏まえてお話が聞けるのではないかと思います。

それでは寺島さん、ひとつよろしくお願います。（拍手）